

## ● 現代教育学部 幼児教育学科 (幼稚園一種)

中部大学の建学の精神および教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、幼児教育学科と児童教育学科(現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載)の2学科が創設された。

幼児教育学科に関しては、近年、家庭や地域社会の教育力の衰退、人間関係の希薄化など社会状況の変化にともない、就学前の教育・保育が抱える問題が複雑・多様化する一方、幼稚園教員あるいは保育関係者が対応すべき課題が山積している。例えば、健全な心身の発達が不十分な幼児、周囲の環境や集団になじめない幼児、外国籍の幼児等への支援、子育てに不安を抱く保護者や児童虐待への対応、幼保小連携の問題等、幼稚園あるいは保育現場の抱えている問題は多岐にわたる。

こうした状況に対応するために、幼児教育学科では、幼児に対して広い視野と温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識と技能を修得し、かつ自らの生甲斐として、継続的に自己の教育者としての成長を追求する言行一致型の教育者を養成することを理念として教育の充実を図ってきた。

この理念のもとに、幼児教育学科では、①温かい愛情のまなざしと豊かな感性を備えた幼稚園教諭としての人間性の涵養と自己の子ども観の形成、②専門職業人としての使命感、責任感に基づいた幼児教育の専門的知識と実践的技能的修得、③幼児教育をめぐるさまざまな今日的・将来的課題について論じ、適切な対応を考えることができる思考判断力の形成、④さまざまな幼児教育現場のニーズに対応できる教育実践力と教師としての資質向上へ意欲を持ち、自己を研鑽し続けること、⑤教育実践に取り組むために高い教育技術と豊かな表現力を修得し、さまざまな人々と連携して子どもをともに育てることのできるネットワークを築くことのできる力量形成を教育目標とし、幼稚園教諭の養成をしてきた。

また、幼稚園教諭一種免許状取得するために必要な専門的学識の修得と実践技能の向上をもたらす「基幹的カリキュラム」を精選・集約し、体系化した教育課程を編成している。具体的には、幼児教育の基礎理論を学ぶ科目、幼児理解のための科目、実践力を養う科目、幼児教育現場のニーズに対応するための科目を配置し、体系的に学習することを通して、幼児教育の諸問題の多角的な把握の仕方やその解決方法について専門的力量を形成していけるように図っている。教育実習についても他資格実習との兼ね合いや、事前の学外における子どもとのふれあい体験の環境を設定することで体系づけている。体系化された教育課程を通して専門知識と実践的指導力を修得し、最終段階での保育・教職実践演習(幼稚園)において自己の専門性の修得状況の点検評価をし、専門性の補足、発展を図れるようにしている。

● 現代教育学部 現代教育学科 現代教育専攻（小一種、特別支援一種、中一種（理科））

中部大学の建学の精神および教育理念のもと、平成20年4月に7番目の学部として現代教育学部が設置され、児童教育学科（現「現代教育学科」2017年4月1日より学科名変更、以後、「現代教育学科」と記載）と幼児教育学科の2学科が創設された。現代教育学科では、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代教育」のあり方についての深い知識、教育実践力および「人間的資質」を備えた人材を養成することを掲げた。次世代を健全に育成する人材に対しては、とりわけ乳幼児や児童に対して温かいまなざしと愛情に裏打ちされた専門的な知識が求められており、現代教育学科では、自らの生き甲斐として継続的に専門的知識を深め、自己の成長を追究する言行一致型の教育者を養成することを目標としている。

現代教育学科の教育目標を達成するために、小学校教諭および特別支援学校教諭の免許取得を可能にする教育課程のもとに教育研究活動を推進している。とくに現代的課題である科学教育や国際理解教育という2つの柱をすえて、人類の拠り所である自然とその法則を理解させ、客観的科学的思考の基礎を形成し、“理科離れ”を改善できる教員、地域の特色である外国人子女教育などに貢献する多文化共生に理解を持つ教員を養成する教育課程になっている。またコンピュータを学校教育に生かすための実践力や多様な子どもを理解しさまざまなニーズを持つ子どもへの教育支援力の養成にも力を入れている。以上のように時代に即応した特徴ある小学校教諭、特別支援学校教諭等の人材を養成する教育課程である。

現代教育学科はこれまで小学校教諭と特別支援教育の2つの教職課程を有していたところであるが、これに加えて中学校教諭（理科）の教職課程を新たに設置した。これは、現代教育学科の特色である科学教育をさらに発展させ、児童のみならず生徒の理科離れを改善できる人材、理科好きな生徒を育てうる人材の養成を目指したためである。このことは、現代教育学科の目標とする専門的職業人の養成をさらに充実させるための一つの方途でもある。

現代教育学部現代教育学科に、小学校教諭の教職課程および特別支援学校教諭に合わせて中学校教諭（理科）の教職課程を設置した目的は、本学の建学の精神と教育理念に則って学科の特色である科学教育をさらに発展させ、児童のみならず生徒の理科離れを改善できる人材すなわち中学校において理科教育に貢献できる高度な教育実践力を持つ教員を養成することである。本学は、中部工業短期大学を基礎としており、工学部、応用生物学部、生命健康学部という理系（自然科学系）の学部教育および大学院教育も充実させて来ており、理系の資質を備えた卒業生を輩出してきた。また学内外に理系のテーマによる研究成果の発表会や講座が開催されることも多く、社会的にも理系色の濃い大学として認知されている。そこで現代教育学部現代教育学科の教員養成においても、本学の特色を生かして理科の中学校教諭の教職課程を設置し、現代的教育課題である「理数力低下」や「理科離

れ」の問題に立ち向かうことのできる、理科教育に情熱と自信をもつ中学校教諭を養成することを目指した。このことにより現代教育学科の教育の柱である科学教育をさらに拡充して推進していきたい。中学校教諭（理科）の教職課程においては実験や演習などの少人数教育が必要となるが、本学は自然科学系の教育課程を履修した大学院生も多く、ティーチングアシスタント制度などによる教育支援の環境が整っており、学内の人的および物理的資源を生かした教職課程を運営することができる。

中学校（理科）の教職課程を設置したことは、また、現在の小学校教諭の養成においても積極的な意味があると考えられる。昨今では理科教育に苦手意識のある小学校教諭も多く、理科教育に関する研修が必要であると考えられる小学校教諭が半数近いという調査もあり（科学技術振興機構、平成20年）、小学校教諭の免許状と同時に中学校（理科）の免許状を取得すること、すなわち、専門的に理科教育を学修して理科教育に自信をもつ小学校教諭が育つことも、教育界のニーズに即応した意義のあることである。

なお、中学校教諭（理科）の教科や教職に関する科目の教育課程上の位置づけであるが、現代教育学科の既存の2つの教職課程と同様に、学科専門科目として位置付けている。学科専門科目は、基幹科目、小学校教育科目、中学校理科教育科目、特別支援教育科目、専門演習の5分類とし、基幹科目の一部と中学校理科教育科目におかれた科目を中学校教諭（理科）の教職課程の科目としている。

● 現代教育学部 現代教育学科 中等教育国語数学専攻(中一種(国語)、中一種(数学))

現代教育学科は、教育実践力、教育支援力を備えた専門的職業人の養成を目指し、教育目標として「次世代教育」の在り方についての深い「専門的知識」および高い教育実践力を伴った「人間的資質」を兼ね備えた人材を養成することを理念として掲げている。

平成 29 年度から、新たに「中等教育国語数学専攻」を開設し、義務教育の基礎・基盤である国語・数学について、教科指導における高い専門性を持つ中学校教員を養成することを目標としている。

中等教育国語数学専攻では、次の三つを柱に据えて中学校教員の養成を行う。

1. 教科指導において確実な力を有し、「あてになる」教員
2. 現代的ニーズに対応できる教員
3. 地域の要請に応えられる教員

中学校教諭一種：国語

中学校国語の教員養成においては、アクティブ・ラーニングなど新しい指導法を身につけ、生徒の国語力向上に指導力を発揮できる教員を養成する。それに加え、次の二点において特色を有する教員養成を行う。一つは、日本語指導が必要な生徒の多い愛知県にあって、日本語を母語としない生徒を対象に日本語学習支援のできる教員。もう一つは、「書のまち春日井」として書道文化の継承を掲げる地元春日井市にふさわしく、伝統文化の継承に貢献できる教員である。

中学校教諭一種：数学

中学校数学の教員養成においては、小学校算数との接続を見通し、数学の面白さを伝え、数学嫌いをなくして、数学の好きな生徒を伸ばせるような指導力を持つ教員を養成する。ものづくりの盛んな愛知県にあって、理数系に強い生徒を育てることは、重要な課題である。また、ビッグデータ時代に即した統計的課題、コンピュータ・ネットワークやセキュリティの問題など、現代的課題への対応力を持つ教員が中学校でも必要とされており、ICTの活用に長けた数学科教員、という特色ある教員養成を行う。